

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2019年5月NO.46

SMILES

<https://www.childfund.or.jp>



タグラグビーの練習をする
女の子たち(ラオス)

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。

ラグビーの力で子どもたちの未来を変える!

特集

チャイルド・ファンド
パス・イット・バック

ラグビーの力で子どもたちの未来を変える!

特集 チャイルド・ファンド パス・イット・バック

「チャイルド・ファンド パス・イット・バック」は、スポーツと国際協力を組み合わせたプログラムです。これまでにラオスやベトナムなどで実施され、厳しい環境に暮らす子どもたちを支援してきました。チャイルド・ファンドは、9月に開幕となるラグビーワールドカップ2019に合わせ、大会を主催するワールドラグビー*1とパートナーシップを組みました。より多くの子どもたちに、スポーツを楽しみ、学び、成長する機会を届けます。

*1 ラグビーユニオンの国際統括団体。ラグビーの5つの価値(「結束」、「尊重」、「品性」、「情熱」、「規律」)に基づき、ラグビーの持続的発展に貢献する。



アジアではラグビーがあまり普及しておらず、「男子のスポーツ」という先入観もないため、男女が同じスタートラインに立ってプレーできます



ラオスの子どもたち。ラオスは初めてプログラムを実施した国です

ワールドラグビーの 公認チャリティパートナーに!

ワールドラグビーとチャイルド・ファンドは、スポーツが持つ力で子どもたちの未来を変えることを目指し、日本で開催されるラグビーワールドカップ2019に



プログラムでは、タグラグビーのトーナメントも行われます。試合後は握手をしてお互いの健闘を称えます

ChildFund
PASSITBACK

SUPPORTED BY **WORLD RUGBY.**

向けた国際的なパートナーシップを、2018年9月5日に開始しました。

ラグビーワールドカップは、ラグビー界の世界一を決定する世界選手権大会です。夏季オリンピック、国際サッカー連盟(FIFA)ワールドカップとともに、世界3大スポーツイベントとも言われています。4年ごとに世界各地で開催されていますが、アジアでは初めてとなり日本が選ばれました。国内12都市、札幌市、釜石市、熊谷市、東京都、横浜市、静岡県、豊田市、東大阪市、神戸市、福岡市、熊本市、大分県にて9月から11月に試合が行われます。

ワールドラグビーの最高経営責任者ブレット・ゴス

パー氏は、「この大会の開催地を日本としたのは、それがアジアでのスポーツと社会変革の流れに大きな変化をもたらすと思ったからです。この目的を実現するために、ラグビーを通じて社会課題の解決に取り組む『チャイルド・ファンド パス・イット・バック』はまさにふさわしいプログラムです。世界でもっとも人口が多く、若い世代も多いアジア地域で、ラグビーが多くの子どもたちにもたらすインパクトに大いに期待しています」と述べています。

このパートナーシップを通して寄せられた寄付により、「チャイルド・ファンド パス・イット・バック」事業をラオス、ベトナム、フィリピン、東ティモール、さらにアジアの他の開発途上国で展開することができるようになります。また、ワールドラグビーからの寄付は、地震などの災害の影響を受けた日本の子どもたちの支援にも役立てられます。アジア全体で、厳しい環境に暮らす2万人以上の子どもたちを支援することができます。



車座になり、コーチがリードしながら
ライフスキル学習を行います

スポーツを通じて途上国の子どもたちを支援

「チャイルド・ファンド パス・イット・バック」は、スポーツを通じて社会課題の解決に取り組む「スポーツと開発」の考えに沿ったプログラムです。チャイルド・ファンドが、ワールドラグビーやアジアラグビーとともに実施しています。

ラグビーとライフスキル学習を組み合わせたカリキュラムを通して、アジアの若者や子どもたちが、困難を乗り越えて社会に前向きな変化を起こし、地域社会にパスをつなげていく力を身につけることを目指します。

「チャイルド・ファンド パス・イット・バック」では、地域の若者たちがコーチとなり、選手である子どもたちを指導します。子どもたちは、スポーツのスキルだけでなく、問題解決力、コミュニケーション力などのライフスキルを学ぶことができます。ライフスキルを身につけることで、子どもたちは日常で直面する悩みや困難に対処できるようになります。



「チャイルド・ファンド パス・イット・バック」の4つの柱

プログラムの中心となっているのは、次の4つの要素です。

ラグビー

子どもたちは、ラグビーをもとにつくられた、タックルなどの激しい身体接触のないタグラグビーをプレーします。スポーツに参加する機会が限られてしまうことのある地域の子どもたちの、「スポーツを楽しむ権利」を守ります。

ライフスキル

子どもたちの内面の成長を促し、リーダーシップを育むようカリキュラムが組み立てられています。子どもたちは、ディスカッションなどの学習を通じて、健やかに成長していくために必要な知識やスキルを身につけます。

子どものセーフガーディング

ユニセフが推進する「スポーツにおける子どもの

セーフガーディングの国際基準」などに沿って、子どもたちが安全、安心にプログラムに参加できる体制を整えています。

ファーストエイド

プログラムに参加するすべてのコーチが、アジアラグビー*2が認定するカリキュラムを通して、ファーストエイド(応急手当)を学び、実践しています。これにより、子どもたちの安全を優先した活動を行うことができます。

ワールドラグビーとチャイルド・ファンドは、「チャイルド・ファンド パス・イット・バック」でスポーツを通じて子どもたちの未来を変えていきます。応援をどうぞよろしくお願いいたします！

*2 ラグビーユニオンの地域統括組織。北のカザフスタンから南のインドネシア、西のレバノンから東のグアムまで広大な地域におよぶ計31カ国のメンバーで構成される。



チャイルド・ファンド パス・イット・バックに込められた想い

プロ野球選手のイチローさんが引退会見で、「熱中できるものを見つけてほしい」と子どもたちにメッセージを残さ



クリス・マスタリオさん

れました。その前日、チャイルド・ファンド パス・イット・バックの生みの親であるクリス・マスタリオさんは、「子どもたちが熱中できるものを提供したかった」とイチローさんと同じ言葉を使って、このプログラムをつくった理由を教えてくださいました。大学院を卒業しアフガニスタン

で国際協力の仕事に就いたとき、子どもたちとスポーツをすると飛び切りの笑顔で応えてくれたそうです。そして国際協力とはライフラインだけではなく、楽しむことを教えるのもその一つだと考え、チャイルド・ファンドの一員となってラオスでこのプログラムを立ち上げました。様々なスポーツを試しながら子どもたちとプログラムを続けているうち、自然とラグビーに絞られ、現在では、国際的に認められワールドラグビーの公認チャリティパートナーに選ばれるまでに成長しています。クリスさんにとってラグビーの魅力は真のダイバーシティ(多様性)だそうです。クリスさんが育った英国北部の地域では、ラグビーは上流社会のスポーツだったようです。「ラグビーをする人とは試合の後、強いつながりが芽生え、階級には関係なく、心からつながりあえる」ところに惹かれ、クリス少年が熱中した結果として、今があるのだらうと思います。

人生を変えた、 チャイルド・ファンド パス・イット・バックとの出会い

「隠れていた宝物」。オーストラリアの公共放送局、スペシャル・ブロードキャスティング・サービスは、チャイルド・ファンド パス・イット・バックの元コーチだったラオ・カンさんをこう評しました。昨年11月、英国営放送BBCが毎年発表する“世界で最も影響力のある女性100選”に選ばれた際のことです。ラオス北部の小さな村に住むモン族出身。カンさんは13歳の時、父親が病気になり家族の面倒をみるため、学校へ行くことを止めました。その7年後、大きな転機が訪れます。チャイルド・ファンド パス・イット・バックの支援を受けることによって、ラグビーに出会い、人生が一変しました。ラオスラグビー連盟でインターンシップの仕事につき、イベント企画などの業務を行い、ラオス女子ナショナルチームにも選ばれました。そしてタイ、香港、韓国、シンガポールでの国際大会でラオス代表として戦ってきました。その功績が称えられ、2014年、カンさんは優秀選手賞に輝き、地域では初めての世界ラグビーコーチ教育者資格を授与されることとなりました。

カンさんはプログラムを通じて、未来を自らの手で変えることに成功しました。「試合では子どもたちに手洗いの大切さ、マナー、年長者への敬意、友情などについて教えています。多くのラオス人女性たちは、ラグビーによって勇気と力強さを感じることができています」。今後は隠れた宝としてではなく、素晴らしいロールモデルとして、厳しい環境にいる子どもや女性たちの未来を変える活動に期待したいと思います。



子どもたちにラグビーを教えるカンさん(右端)。次の世代へとパスをつなげています！

子どもたちが災害から守られる学校を

2018年11月より、ネパールの支援地域であるシンドゥパルチョーク郡で、「災害に強い学校づくりプロジェクト」を実施しています。このプロジェクトは、子どもたちが安心して学ぶことができ、緊急時においても子どもたちが守られる環境を整えることを目的として、2015年の大地震で影響を受けた学校で、安全な校舎の再建と学校の防災体制づくりを行っています。

2015年4月のネパール大地震は、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援を行ってきた同郡にも甚大な被害をもたらしました。震災直後から継続して行ってきた緊急支援は2017年9月に終了しましたが、被災学校の再建など、子どもを取り巻く環境の復興には、まだ支援が必要です。同郡カリカ村は首都カトマンズから約50キロですが、標高2,000mほどの山の中にあり道路が良くないため、カトマンズから車で4時間ほどかかります。村の学校は、地震により校舎が倒壊し、トタン屋根の仮設校舎で授業を行っていました。耐震性など安全面の不安に加え、雨が降ると、トタン板を打つ雨音で先生の声が全く聞こえなくなるような環境で、子どもたちは集中して勉強することができませんでした。

そこで、日本の外務省NGO連携無償資金協力の支援を得て、耐震性のある校舎の再建と、学校関係者や保護者など地域の人々を巻き込んだ防災研修を実施することで、地震などの災害により強い学校を目指した取り組みを開始しました。2018年11月27日、在ネパール日本国大使館で、西郷正道特命全権大使とチャイルド・ファンド・ジャパン松浦次長が日本NGO連携無償資金協力贈与契約に調印しました。2階建て6教室の耐震校舎を建設中のほか、教職員や学校運営委員会*のメンバーを対象に研修を実施し、災害時に子どもの安全を守るための技術や知識を学び、学校安全



調印式にて。前列右から3番めが西郷正道大使、同4番めが松浦次長

計画を策定し、さらに学校での防災訓練を行い、災害に備える仕組みづくりを支援するプロジェクトです。昨年12月に始まった建設工事は、3月末までに2階の屋根まで建設が進んでいます。6月には始まる雨季の前に、外壁工事の完了を目指しています。校舎再建を支援している学校は、険しい山の中腹にあり、すべての資材を急な山道を通して輸送するのは難しく、さらに水道がなく電力供給も不安定な場所にあります。建設作業は困難の連続ですが、地域の人々と知恵を出し合い、別の水源からパイプを通し

て必要な水を確保するなど地域と協力して進めています。

大震災を経験し、災害時に子どもの安全を確保することは各学



少しずつ建物の形ができあがってきています

校が抱える課題となりました。どの学校でも避難訓練すらしたことがなく、地震がどのようなメカニズムで発生するかも説明できる教員はわずかしかいませんでした。そのため、このプロジェクトでは避難場所や避難経路を専門家らと設定し、学校にいる子どもたちを安全に誘導する防災訓練も実施しています。

学校での防災訓練は、幅広い年齢層、体力も持久力も大きな差のある子どもたちを、一斉に安全な場所に避難させなければなりません。教員だけでなく上級生も一定の役割を担い、下級生の避難を手伝う仕組みが鍵となります。崖地を切り開いたわずかな土地に校舎を建設している学校がほとんどです。こうした場所では校庭も狭く、背後に切り立った崖が迫っていて安全とは言えません。そのため日本で培われた防災の知識だけでなく、地域にあった学校安全計画、避難場所や避難経路の設定が大切で、教員や保護者、地域の人々と協力して事業を進めています。

* 教職員や保護者、地域の住人によって構成される学校の運営母体。各学校の運営や予算運営について大きな権限を持つ。



プロジェクトで支援をする学校に通う子どもたち

子どもの セーフガーディングへの取り組み

チャイルド・ファンド・ジャパンのミッション(使命)は「生かして生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る」です。1975年より子どもの権利を守り、子どもの保護を最優先に活動を行ってきました。皆さまからのご支援により子どもたちが勉強を続けられる一方で、子どもたちを取り巻く環境が時代とともに変わり、学校内でのいじめや家庭内暴力、虐待からも子どもたちを守る必要がでてきました。



そこで、チャイルド・ファンド・ジャパンは、子どもたちを守る体制をより一層強化するため、「子どものセーフガーディング方針」と「子どものセーフガーディングの行動規範」を制定し、昨年2018年11月20日の「世界子どもの日」に合わせ、その内容をウェブサイトに掲載しました。子どものセーフガーディングには、チャイルド・ファンド・ジャパンの組織に関わる人々(Staff)、組織運営(Operations)、事業(Programs)が、子どもたちにあらゆる形態の危害を与えないための方針と行動規範が掲載されています。内容については、ウェブサイトをどうぞご覧ください。

<https://www.childfund.or.jp/blog/181119csgp>



「子どものセーフガーディング」の国際基準では、組織で備えるべき事項が、規程(Policy)、関わる人(People)、予防と対応の手続き(Procedure)、常に説明できる体制(Accountability)の4つの分野に整理されています。この4つの分野にそって現在進めている取り組みをご紹介します。

Policy People Procedure

まずは役員、職員から

チャイルド・ファンド・ジャパンの役員(理事、監事)と職員が「子どものセーフガーディング方針」と「子どものセーフガーディングの行動規範」をよく読み、遵守することを約束し、署名しました。同

様に会員にも進めています。また、東京事務所内に「子どものセーフガーディング委員会」を設置し、各活動の中に子どものセーフガーディングを反映する動きを作り始めています。

People

海外事務所でも

フィリピン事務所では、子どもへの暴力の予防・対応・通報の手続きを見直すため、活動地域の子どもたちや家族、住民組織の代表に対してヒヤリングを行いました。子どもたちからは「地域

のスタッフがいつも親身になって相談にのってくれるので、悩み事を聞いてほしい時には頼っている」との声が届き、家族以外にも相談できる存在がいる大切さを実感しました。また、フィリピン事務所の全スタッフと11のプロジェクト

事務所の責任者スタッフに対して「子どものセーフガーディング」の国際基準を学ぶ研修を行いました。研修に参加したスタッフは国際基準を「PPPA(上記4つの分野の頭文字)」と呼んで熱心に学んでいました。ヒヤリングの結果と

研修での学びを活かし、子どもを守る体制づくりを進めます。

スタッフへの研修はネパール事務所でも行いました。事業を通して子どもを守ること、子どもに危害をもたらさないために組織として準備することを確認し合った後、活動地域の行政機関

や協力団体とも共有できるネパール語の「子どものセーフガーディング」規程作成を進めています。ネパールでは、昨年9月、子ども法2018が制定され、家庭を含めすべての環境で子どもへの体罰を禁止しました。今後、行政機関と連携して、子どもを守ります。



ネパールでの研修の様子

People Procedure

支援者の方々も

支援者の方々とのコミュニケーションの中でも、「子どものセーフガーディング」が少しずつ浸透しています。

企業ではまずGMOインターネットグループの皆さまが、この取り組みを応援してくださり、社員の方々との意見交換を行う機会をつくってくださいました。「しつけと虐待の線



引きが難しいので通報は迷うが声かけだったらできるかもしれない」「インターネット事業者としてできることはなにか」「企業

としてどこまで責任を負うべきか迷う」など率直な意見が出る中、武田事務局長より「『セーフガーディング』という言葉に対して身構えてしまうかもしれませんが、今回を機に子どもを守るということを身近に考えていただけると嬉しいです」とコメントしました。意見交換の様子はGMOイン

ターネットグループの社内でも共有されました。

また、青山学院高等部の生徒の皆さんには、フィリピンへ訪問する前に「すべての子どもがチャイルド・ファンド・ジャパンの活動で安心・安全にすごすためのみんなの約束」として子どものセーフガーディングを説明いたしました。「ここにいる一人ひとりを大切にします」「怖い気持ち、嫌な気持ちになることを言いません。しません」など、約束事1つ1つ読みあげて、その内容を確認しました。

フィリピンでは支援地域の子どもとの交流も予定していましたので、みんなが安心して楽しく過ごせるにはどうしたら良いか、考える機会をつくりました。



「いじめ」「暴力」「虐待」。子どもへの暴力のない世界を目指して。

1989年にすべての子どもの人権を保障する国際条約である「子どもの権利条約」が、国連総会で採択されてから30年が経ちますが、子どもたちを取り巻く環境は時代とともに多様かつ複雑になってきました。支援地域だけでなく、

国内での広報・啓発事業を含むチャイルド・ファンド・ジャパンのすべての活動において、子どもたちの権利と尊厳を守り、子どもたちがあらゆる危害から守られる組織を目指します。

チャイルド・ファンド・ジャパンが大切にしている「子どもの権利条約」の4つの柱

生きる権利

病気から守られ、
怪我や病気をしたら
治療を受けられること

育つ権利

教育を受け、
休んだり遊んだり
できること

守られる権利

あらゆる種類の
虐待や搾取から
守られること

参加する権利

自由に意見を表したり、
集まってグループを作ったり
自由な活動を行ったり
できること

古本でのご寄付にご協力ください!

お手元に不要になった本はありませんか?チャイルド・ファンド・ジャパンは、古本を活用してNPO・NGOをサポートする『チャリボン』と協働し、古本での寄付を受け付けています。

お送りいただいた古本は、『チャリボン』を運営する株式会社バリューブックスが査定し、買い取り相当額がチャイルド・ファンド・ジャパンに寄付されます。ご寄付はフィリピンやネパールの子どもたちへの支援活動などに活用されます。『チャリボン』を通して、これまでに合計233,694円のご寄付をいただきました(2018年9月~2019年2月)。引き続き、多くの皆さまからのご協力をお待ちしております。

例えば...

20冊で 子ども1人に学用品セットを贈ることができます。

授業を受ける時に必要なノートや文房具のセットを届けます。ネパールの公立校では学費は無償ですが、文房具や制服、副教材などを各自で用意する必要があります。用意することが難しい家庭の子どもたちに、学用品セットを届けます。



200冊で 子どもたちが一緒に勉強できる机一つを贈ることができます。

ネパールでは2015年4月の大地震で、多くの校舎が全壊、損壊しました。校舎の再建・修復に加え、教室の設備を整える必要があります。低学年の子どもたちがクラスメイトと一緒に座って勉強できる、低い机(座卓)を届けます。



※買取価格が1冊50円の場合

寄付の方法

寄付を受け付けているもの

- ISBN(国際標準図書番号)のついている書籍
- 規格品番のついているDVD、CD、ゲームソフト

※百科事典、コンビニコミック、個人出版のマンガ雑誌、一般雑誌は受け付けておりません。



書籍やDVDなどをダンボールや紙袋に詰めます。合計5点以上で送料無料にてお送りいただけます。

電話またはWEBフォームから、株式会社バリューブックスへ直接お申し込みください。

電話で
申し込む場合

0120-826-295

へお電話ください。贈与承諾書にご記入いただき、書籍と一緒に梱包してください。

webフォームで
申し込む場合

チャリボンのウェブサイト

<https://www.charibon.jp/donation/action.cgi?id=257>よりお申し込みください。

宅配業者がご指定の時間に引き取りに伺います。集荷の際に、送り先や差出人のお名前などが印字された伝票をお持ちします。※古本の送り先は、チャイルド・ファンド・ジャパンの事務所ではありませんのでご注意ください。

ウェブサイトで、詳細の確認や贈与承諾書のダウンロードができます。

<https://www.childfund.or.jp/support/usedbook.html>

チャイルド・ファンド・ジャパン 古本 検索

インフォメーション コーナー

ご報告

「杉並区民の手でネパールに学校を!」キャンペーンのご報告

杉並区民の皆さまからの書き損じハガキや未投函のハガキ、未使用の切手を活用して、ネパールに学校を建てることを目的とした「杉並区民の手でネパールに学校を!」キャンペーン第9弾。皆さまからご協力いただいた結果、501,609円分のご寄付となりました。心よりお礼申しあ



げます。過去のキャンペーンを通してネパールに5つの校舎や教室を建設し、教室の入り口には杉並区のキャラクター「なみすけ」が描かれた記念プレートが掲げられています。

お知らせ

スリランカの成長記録の発送時期について

スポンサーシップ・プログラムでスリランカのチャイルド(子ども)をご支援くださる皆さまに一年に一度、成長記録をお届けしています。成長記録はこれまで冬頃にお届けしてきましたが、支援地域での事業の調整により、今後は春頃にお届けすることになりました。ご理解くださいますよう、お願い申し上げます。チャイルドの一年の成長を、どうぞご覧ください。

Ch^{id}Fund
Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

Ch^{id}Fund
Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う11団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ

<チャイルド・ファンドだより SMILES> 2019年5月発行

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
理事長/長山信夫 事務局長/武田勝彦
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail:childfund@childfund.or.jp
URL:https://www.childfund.or.jp/

<デザイン>
モステデザイン研究所
<印刷>
有限会社東西印刷

